

# 町長発！『がんばるトーク』

町長 上川 元張



このたび町でマルチタスク車両を購入しました。マルチタスク車両とは、通信機器を備え、用途に応じて車両内のレイアウトを柔軟に変更して行政や医療サービス、災害対応など様々な用途に活用することができ、架装車両のことです。

今後、高齢化の更なる進行により運転免許証の返納者が増えると、役場に行けない、医療機関に行けない、民間サービスにアクセスできないなど移動に困難を抱える方々の増加が予想されます。免許返納後も生活が維持できるように、デジタルの力を活用した出張サービスにより住民生活を支えようと導入を決定しました。

様々なサービスのうち、まずはオンライン診療サービスでの活用を4月から開始します。もちろん医療は対面診療が原則ですが、慢性期の患者で健康観察や薬の継続処方为主目的の診療であれば、オンラインでも代替できるのではないかと。特に冬場、雪深い本町では、雪道での患者の通院や医師の往診のリスクの軽減につながるのではないかなどの考えから、先進地調査なども行いつつ検討を重ねてきました。また、医療機関のご協力が不可欠ですが、わかさ生協診療所とわかさ

薬局で問題意識を共有していただき、実施できる体制が整いました。

先行自治体では、トヨタハイエースなどの大型車両の導入が多いですが、本町では、集落内の狭い道でも走行できる小型車両トヨタシエンタを全国で初めて導入しました。限られたスペースでの駐車も可能で、燃費性能も優れています。内閣府と鳥取県の補助金を活用し、モネテクノロジーズ(株)の協力を得ながら、車両や積載機材を整備し、事業構想を決定しました。ラッピングは、氷ノ山の雪山、桜の花びら、澄み切った清流をあしらった、さすがらしくさわやかなデザインに仕上がりました。

この車両に看護師などの医療スタッフが乗車し、患者の自宅などへ出向き、車内の通信機器を用いてわかさ生協診療所とつなぎ、医師がオンラインで診察します。薬の処方箋は希望する薬局に送られ、わかさ薬局などのオンライン服薬指導に対応できる薬局では、調剤後、翌日を目安に患者のもとに配達される仕組みです。運用当初は、患者の症状を熟知する医師が認めた慢性期疾患の患者数名を対象に開始します。まずは小さく始めて課題等を検証し、改善を加えながら進めて



▲マルチタスク車両

いきます。いつでも使えるシステムや運営ノウハウをきちんと整備して備えておくことに意義があると考えています。

今後、災害発生時の現地対策本部としての活用も検討しています。衛星通信機能を持つスターリンクを活用することで、避難者100名程度の携帯電話等通信機能を確保できるため、避難所で通信環境サービスを提供することも可能です。また、選挙の投票機会を確保し、投票率の向上を図るため、移動期日前投票所としての活用も検討します。

町民の皆さんのニーズを拾い上げながら、マンパワーとデジタルの力を組み合わせ、順次、活用方法を拡げていきます。